

Social Activity Report

Wellness

Otaru Chikko

Town

No.2



Creating Shared Value 経営の実践

市民や地域社会と共有できる価値の創造



ウエルネスタウン

小樽築港ウエルネスタウン構想
活動レポート 2022年7月

法人紹介

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会

住所 〒047-0008
北海道小樽市築港10-1
電話 0134-21-2757



株式会社小樽ベイシティ開発

住所 〒047-0008
北海道小樽市築港11-5
電話 0134-21-5555



■事業概要

開業 恩賜財団 済生会1911年5月
北海道支部1924年7月

- ・小樽病院 378床(みどりの里120床)
- ・重症心身障がい児(者)施設 みどりの里
- ・小樽老人保健施設 はまなす
- ・済生会ビレッジ

地域ケアセンター

小樽市南部地域包括支援センター
居宅介護支援事業所はまなす
済生会訪問看護ステーション
ウエルネスリハビリサービスライヴリー

福祉センター

発達支援事業所きっずてらす
きっずてらすDuO
就労継続支援事業所ぷりもぱっそ

■北海道済生会の特徴

- ・全国最大の社会福祉法人グループ
- ・急性期～回復期までの一体的な医療提供
- ・医療・福祉・介護のトータルケアサービス
- ・社会保障制度で対応困難な課題解決事業

■事業概要

開業 1999年3月

・ウイングベイ小樽

敷地面積	81,500㎡
延床面積	340,000㎡
物販面積	98,000㎡
総店舗面積	135,000㎡

■ウイングベイ小樽の特徴

～国内でも類を見ない特徴～

- ・国内有数の面積規模
- ・海が望めるロケーション
- ・大型駐車場(約5,000台)
- ・JR小樽築港駅直結(快速エアポート停車)
- ・施設内の70%が全国チェーン大手のテナントが入居(イオン、ニトリ、ピバホーム)

小樽市について



社会構造の変化に対応したまちづくりが求められている

概要

小樽市は、古くから北海道有数の港湾都市として発展してきました。札幌市から約40kmの距離にあり、道路交通網では国道5号と札幌道により約1時間で結ばれています。鉄道では函館本線札幌駅から約30分、新千歳空港から約70分の所要時間になっています。これに加えて札幌駅と小樽駅、小樽築港駅を結ぶ高速バスが概ね5～15分間隔で運行されており、札幌市内から日帰りで容易に観光する事ができます。

寿司屋や運河の街として知られ、観光都市としても人気が高く、毎年700万人以上の観光客が訪れています。2021年市町村の魅力度ランキングでは第4位となり、魅力度の高いまちとして評価されています。

人口

小樽市の人口は記録のある明治元年の2,230人から始まり、1964年（昭和39年）9月末の住民基本台帳人口で207,093人の最大値を記録した後は減少が続いています。

2022年（令和4年）3月末の住民基本台帳人口は、109,712人となり、この58年間で97,000人を超える人口が減少しています。近年は市外転出による社会減少のみならず、死亡数の増加と出生数の減少による自然減少が拡大し、少子高齢化が加速度的に進行しています。

小樽市は地理的に急傾斜が多く縦長な地形であり、豪雪地帯でもあります。

今後は、住民が暮らしやすく、安心して生活出来る環境を整備し、定住促進や地域外からの流入を旨としたまちづくりが求められています。

歴史

小樽市は北海道の中で古い歴史を有しており、慶長年間には松前藩の商場（あきんば）が置かれていたとしています。明治になり蝦夷地を北海道と改めて本府を札幌に定めると、海の玄関口である小樽にヒトやモノが集まるようになりました。

1880年（明治13年）には北海道内初となる鉄道が手宮-札幌間に開通し、小樽港は道内各地への開拓民の上陸や物資陸揚げの港となり、昭和初期にかけて金融機関や船舶会社、商社などが進出して北海道経済の中心都市として発展しました。

戦後、ニシン漁の不漁や樺太の喪失、石炭需要の減少、道内他都市の港湾施設整備などによって卸商が衰退し、札幌市が北海道の中心都市として発展すると小樽市は衰退の一途を辿るようになりました。

近年は、「運河論争」を機に明治後期から昭和初期にかけての歴史的建造物を観光資源として見直し、観光都市として脚光を浴びるようになっています。



小樽市総合博物館所蔵

明治期の小樽

1. まちづくり構想と計画



「済生会令和賞」

2020年7月まちづくり開始

北海道済生会と株式会社小樽ベイシティ開発は、「小樽築港地区におけるウエルネスタウン構築に関する協定」を締結しました。

この協定は、社会福祉法人として医療・保健・福祉活動を総合的に提供することを通じてソーシャルインクルージョンを具現化する済生会と、市民及び近隣生活圏に暮らす住民に豊かで健康的なライフスタイルを提案するウイングベイ小樽内の関係企業が連携することで、相互のノウハウや資源を活用し、健康で豊かな生活を実感できるまちづくり「ウエルネスタウン構想」を推進することを目的としています。

小樽市における新たな価値の創造、地方創生への貢献を目指します。

SDGsへの取り組み

「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は、私たちが目指す「地域住民一人ひとりが健康で豊かな生活を実感できる「ウエルネスなまちづくり」と方向性を一つにしています。

住民、行政や企業団体等の多様なステークホルダーと連携・協働しながら、SDGsの視点を十分に意識した各種施策を推進していきます。



2021年12月 SDGsアワード受賞

済生会は、岸田内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部より、第5回ジャパンSDGsアワード「副本部長（内閣官房長官）賞」を受賞しました。社会福祉法人としては初受賞となります。



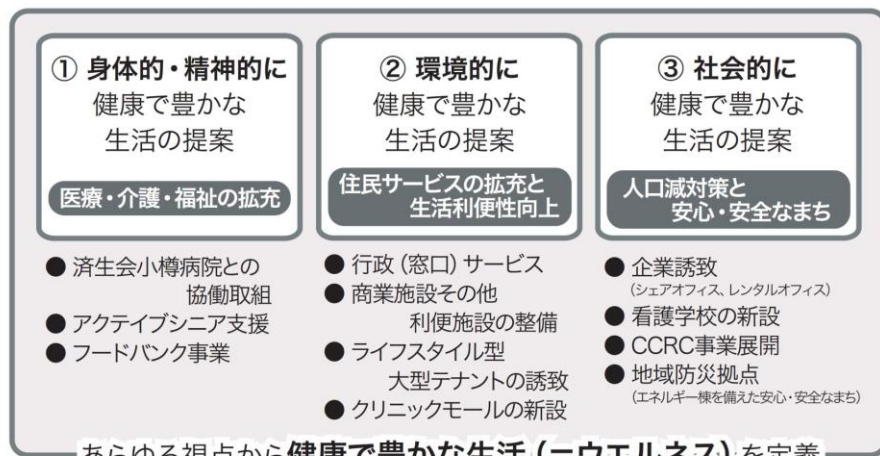
2022年2月「済生会令和賞」受賞

済生会の内部表彰制度「令和3年度令和賞」に済生会小樽病院が選ばれました。この表彰は全国済生会300余りの病院や社会福祉施設等の中から、利用者へのサービス向上や地域貢献等により法人の名誉向上に寄与した施設に送られる賞です。

ソーシャルインクルージョンの観点から、国や地元行政、企業等と連携して取り組んでいる「ウエルネスタウン構想」の活動が高く評価されました。

上の写真は、ウエルネスタウン構想パートナー（株）小樽ベイシティ開発の橋本代表取締役、受賞の報告をしたときのものです。

「ウエルネスタウン」構想の3つの取り組み



あらゆる視点から健康で豊かな生活(=ウエルネス)を定義

住みたい・住み続けたいまちを創出することで、人口の維持と増加をはかり、まちの成長力確保をはかります

「ウエルネスタウンの定義」

ウエルネスタウン構想 3つの取り組み

【ウエルネスの定義】

ウエルネスタウンを実現するにあたり、まずは「ウエルネス」という言葉の定義を考えました。

私たちは、次の3つの観点からウエルネスを捉えています。



②環境的に健康で豊かな生活の提案

【行政サービスなどの拡充】

地域住民の住環境の充実や利便性を提供します。

ウイングベイ小樽の商業施設としての現機能に加え、市民にとってより便利な機能を拡充し、公共性の高いサービス機能の充実、市のサテライトオフィスなどの誘致活動に取り組みます。

また、急激な社会変化に対応できずに困窮する社会的弱者が増加していることを踏まえて、行政や企業と連携し救済ネットワークを構築します。

さらに、産学官民連携による新たなヘルスケア産業の創出事業にも取り組み、先駆的取り組みによる地域の活性化やブランド化にも貢献します。

①身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案

【医療・介護・福祉の充実】

小樽市の高齢化率は全道平均より高く、2045年には二人に一人が高齢者になることが推計されています。北海済生会と小樽ベイシティ開発は組織的な連携体制を構築し、ウイングベイ小樽内に市民のための健康・福祉ゾーン「済生会ビレッジ」を開設し、地域包括ケアシステムと地域課題解決のための事業拠点を設置しました。

また、国の制度やこれまで行ってきた事業の枠を超えた事業にも積極的に取り組んでいきます。

③社会的に健康で豊かな生活の提案

【人口増加を意識した取り組み】

近年自然災害が頻発し全国各地で甚大な被害が発生していることを踏まえ、小樽ベイシティ開発のエネルギーセンターとウイングベイ小樽の広い空間を活かした地域防災拠点施設として必要な機能を整備し、安心・安全な暮らしを提供します。そのうえで、アクティブシニアを中心にあらゆる世代が「生涯活躍ができるまち」CCRC (Continuing Care Retirement Community) の構築を目指します。

また、地域外からの流入による人口減対策を図ることを目的とし、ウイングベイ小樽内にシェアオフィス、レンタルオフィスの整備も計画します。

2.

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～

【医療・介護・福祉の充実】



ウイングベイ小樽5番街1階「済生会ビレッジ」

済生会ビレッジの事業

北海道済生会が市民のための健康福祉ゾーンとして開設した「済生会ビレッジ」は、地域共生社会の実現を目指して分野横断的な相談支援を行うほか、地域の課題に対応した様々な事業を展開しています。

2022年3月には、発達支援事業所「きっずてらす」の2号目の事業所「きっずてらすDuO」を開設し、同4月には、既存の通所リハビリテーションの枠組みをさらに発展させた新規事業、ウエルネスリハデイサービス「ライヴリー」を開設しています。

地域ケアセンター小樽市南部地域包括支援センター

地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う基幹センターです。保健師、主任ケアマネージャー、社会福祉士等が専門性を生かした相互連携のもと、地域住民の生活を支援します。



実績（2021.4～2022.3）

相談件数	介護予防プラン作成件数
1,390	5,034

地域ケアセンター居宅介護支援事業所はまなす

ご自宅等で暮らし支援を要する高齢者や障がい者が介護支援サービス等を利用できるよう、ケアマネージャーや相談支援専門員が必要な申請手続きのお手伝いやサービス計画の作成を行います。



実績（2021.4～2022.3）

ケアプラン作成件数
2,379

地域ケアセンター訪問看護ステーション

看護師や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士といった専門職が療養されている方のご自宅に訪問し、かかりつけ医の指示のもと、在宅での看護ケア（療養上のお世話や、診療の補助）やリハビリテーションを行います。



実績（2021.4～2022.3）

訪問件数
5,464

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】

済生会ビレッジ事業が生み出す新たな価値



地域共生社会の構築と地域課題の解決

介護保険通所介護事業所

ウエルネスリハビリサービス **ライヴリー** 開設

当事業所は、「生きいき生活を送るための実践の場」をコンセプトに、カラダの健康・心の健康・生活中的楽しみ・自分らしい生活、の4つ視点につながるリハビリプランを提供し、利用者のQOL（クオリティオブライフ＝生活の質）を高めるサービスを提供いたします。

近年プロスポーツなどで導入されている、最先端の脳・運動活性化理論「ムーブメント・プラクティス」を、全国で初めて介護分野に取り入れています。カラダの機能を最大限に引き出すための動作を体験・学んでいただくことで、介護予防に繋がる動作を習得していただきます。



ショッピングリハビリテーション

人口減少や少子高齢化、小樽特有の中山間・豪雪地帯という生活環境を背景に、日常の買物機会を十分に得られない人々、いわゆる「買物弱者」への対策が必要となっています。

当事業所では、「買い物を楽しみたい」という高齢者の生活を支援するため、買い物動作を細かく分解して訓練プログラムに落とし込んだショッピングリハビリも提供しています。歩行器とショッピングカートを一体化させた歩行補助器具を使い、ウイングベイ小樽のテナントと連携したサービスを実施いたします。

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



発達支援のための体制整備

発達支援体制の必要性

現代社会は、科学技術の発達も後押しし便利さが追求されるようになりました。そのため、人々は快適な生活を送れるようになった一方で、競争社会に身を置き、ちょっとしたミスも許されない、成功しないとよい人生が送れないといった息苦しい側面も併せ持っています。そのため、ストレスを抱え将来に希望がもたず、精神的に不健康になっている人も増えています。

この傾向は、子どもの世界でも同様であり、精神的問題を抱えるお子さんの数は増加していることから、多くの専門家が、発達支援に対する国民の理解と早期支援が必要であると指摘しています。

北海道済生会福祉センター
発達支援事業所 きっずてらす

地域共生社会の実現を目指した児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援を行う複合型事業所です。

変化の激しい社会にあって、発達に不安をかかえるお子さんが増えています。このような社会的背景と地域ニーズに鑑み、お子さんの発達段階における子育て支援を行っています。

当事業所では、ウイングベイ小樽内の施設「ドリームランド イカロスの城」様と連携し、これまでに類を見ない幅広く、ダイナミックな感覚統合訓練、支援サービスを提供しています。

2022年3月 「きっずてらすDuO」 開設

地域における高度専門的な発達支援サービスのニーズに応えるため、新たに「きっずてらすDuO」を開設しました。

既存の「きっずてらす」とともに、2つの事業所を機能別に運用し、個別性に応じた専門性の高い発達支援を提供いたします。

また、新たに医療的ケア児の通所事業も開始し、医療的ケア児童を社会で育てるための支援体制を強化いたしました。

きっずてらす・DuO実績 (2021.4～2022.3)

登録者数	延べ利用件数	保育所等訪問
75	2,363	35

きっずてらす 秋祭り

2021年10月、子どもたちにお祭り気分を味わいながら、たくさんの社会経験の場を提供するイベントを実施しました。

当日は約400名のお子さんが来場し大盛況でした。



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



ソーシャルファーム（社会的企業）

就労継続支援事業所

ぷりもぱっそ

児童発達支援から就労支援まで、生涯にわたっての支援体制を構築するため、済生会小樽病院みどりの里内に就労支援事業所「ぷりもぱっそ」を開設しました。

これにより、「きつずてらす」等で支援を受けたお子さんが、必要に応じて、なじみのある生活・支援空間で安心して就労作業を習得し賃金を得られる環境が整いました。

事業所の作業内容は、病院清掃、クリーニング、食品販売が中心ですが、今後はウイングベイ小樽との連携をさらに深めることで、幅広い業種の作業を請負うことが可能となります。

施設外就労活動

施設外就労とは、就労支援サービス利用者と事業所スタッフがユニットを組んで、企業から請け負った作業を当該企業内等で行うことを言います。今期は新たに2件の施設外就労を請負いました。

市内で海鮮市場を経営する夢市場様などから販売作業を請負い、ウイングベイ小樽済生会ビレッジで「済生会ぷりもショップ」を開店しています。

また、（株）小樽ベイシティ開発様からウイングベイ小樽内に設置している手指消毒液のボトルの詰替え作業を受託しました。その他済生会ビレッジ関係施設の清掃やクリーニングも行っています。

施設内就労活動

施設内就労では、済生会小樽病院やみどりの里のクリーニングや清掃作業を行っています。

作業内容

①クリーニング

- ・済生会小樽病院みどりの里患者用タオルや衣類
- ・済生会小樽病院みどりの里職員ユニフォーム
- ・ウエルネスリハビリサービスライヴリー職員ユニフォーム
- ・済生会小樽病院みどりの里リネン運搬回収

②清掃

- ・済生会小樽病院みどりの里一部フロア、窓、施設周辺の清掃

③済生会地域ケアセンター車両の洗車



実績（2021.4～2022.3）

登録者数	延べ利用件数
17	1,239

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



生活習慣の改善を促す提案

2022年6月 ウイングベイ
ウォーキングスタート

市民の健康づくりを後押しすることを目的に、商業施設ウイングベイ小樽に全天候型ウォーキングコースを設置しました。

本コースは、済生会小樽病院の理学療法士が監修し、ご自身の体力に合わせてウォーキングを楽しめるよう済生会ビレッジをスタート地点としA B Cの3コースを設定しました。コース内には正しい歩き方などの情報も掲示しています。

アプリを使ったポイントシステム導入

LINEアプリを活用したポイントシステムを導入しました。ウォーキングや済生会のイベント、ボランティアに参加することでポイントを貯めることができます。

ポイントゴールを達成するとクーポン券が発行され、ウエルネス商品と交換していただけます。



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】

済生会 小樽市保健事業と介護予防の一体化事業
ウエルネスフェア
with **ウイングベイ小樽**

主催：北海道済生会 共催：株式会社小樽ベイシティ開発 後援：小樽市



市民の健康増進と福祉向上のイベント

2022年6月 済生会ウエルネスフェア
with ウイングベイ小樽

6月20日～26日、ウイングベイ小樽にて、市民に買い物を楽しみながら健康に関する情報に接していただくイベントを開催しました。期間中、約2,000人が来場し講演会や様々な体験コーナーに参加いただきました。

【主催】北海道済生会 【共催】(株)小樽ベイシティ開発

【後援】小樽市、小樽市社会福祉協議会

【イベント協力企業】ココカラファイン、サッポロドラッグストア、SHARE、フロンティア、ライオン、ユニクロ、明治、ソプラティコ 【協賛店舗】アスピー、AOKI、イオン小樽店、オンディーズ、喜久屋書店、ココカラファイン築港店、中国料理華花、ライトオン、おたる夢市場

講演 済生会におけるソーシャルインクルージョンのまちづくり

済生会の炭谷茂理事長が「障害者や貧困者など社会的に弱い立場の人々を地域社会が受け入れる『ソーシャルインクルージョン』という理念に基づいたまちづくり』について講演し、「済生会は地域の皆さんと一緒にこれを進めていきたい」と語りました。



講演 「自分らしく笑顔で生きるために」

フリーアナウンサーで野菜ソムリエの資格を持つ佐藤麻美さんが自分らしく笑顔で生きるための秘訣を披露されました。

「ちゃんと食べて、ちゃんと寝る」、このような習慣が重要と訴え、その具体的な秘訣を分かりやすく、また楽しくお話されました。



済生会ビレッジで「あそびログ」

北海道済生会と児童福祉に関するNPO法人・企業が共働し、からだの不自由なお子さんの「あそび」に関する工夫を紹介するイベントを開催しました。

参加した保護者から、「あそび方の工夫により、これまで出来なかったことができるようになる！これまでに気づけなかったお子さんの様子が発見できた！」など、あそび方による再発見が続出していました。



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～ 【医療・介護・福祉の充実】



市民の健康・福祉ゾーンとしての活動

ちよこっと健診

「済生会小樽病院“ちよこっと健診”の券売機」を済生会ビレッジに設置しています。

健診時間はおよそ15分、「忙しい」「病院受診は気が重い」などの理由から健診の機会が遠のきがちな方や、企業健診で「要再検査」結果の方々にお勧めです。

気になる項目だけを検査して帰宅、結果票は自宅に郵送されます。

○人気検査コース（2021年度）

- 1位 糖尿値
- 2位 コレステロール
- 2位 骨粗しょう症
- 4位 メタボリックセット
- 5位 ピロリ菌

実績（2021.4～2022.3）

発券数
274

相談支援事業

済生会の経験豊富な看護師などによる無料健康相談会を毎週火曜日実施しています。気軽に、買い物ついでに相談できるこの事業はとても好評です。相談内容は「お薬の服用に関すること」、「血圧に関すること」、「肩こりや腰痛」など様々です。

また、無料低額診療や医療費に関する相談会も実施しました。経済情勢の変化による離職等により、医療費の支払いが困難になったケースなどの相談支援を行っています。

実績（2021.4～2022.3）

相談件数
103

福祉・キッズアート

キッズ・福祉エリアでアート展を開催しています。福祉アートでは主に重症心身障がい児者施設入所者の作品を展示しています。大胆な色遣いと既成概念にとらわれない構成的な表現の作品に、来場者から感動の声をいただいています。今後も無限の可能性と才能に光をあてていきます。

実績（2021.4～2022.3）

展示作品数
73



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



市民活動の支援事業

2022年5月住民主体の
介護予防活動開始

済生会ビレッジのコミュニティーエリアでは、「唄声ボランティア スキップ和楽路」さんによる介護予防運動がスタートしました。

この活動は毎月定期的に行われていますが、住民の通いの場で交流もできる居場所づくりは、高齢者に限らず住民同士の絆を深め、地域ネットワーク強化や社会資源の開発にもつながっています。

北海道済生会では、市民の健康意識向上を図り、住民が支え合い、助け合える地域づくりを目指していきます。

2022年4月野球ひじ検診

余市リトルシニア球団の中1～3年生までの選手30名を対象に、野球ひじ検診を実施しました。

済生会小樽病院の整形外科医師等が触診やエコーで



検査を行い、症状のない選手に隠れた異常がないか調べ、予防方法等のアドバイスを行いました。

未来ある選手たちの選手生命を守るため、今後も継続的にサポートします。

2021年12月小樽サンタラン

小樽サンタランは、小樽商科大学生が中心となり、クリスマス頃にサンタクロースの衣装で街を歩き、その参加費から病氣と闘う子どもたちにプレゼントを贈る活動をしています。

ここ数年、コロナ禍の影響で自粛していた活動ですが、重症心身障がい児施設みどりの里と連携し活動を再開しました。

当日は商大生5人がサンタに扮して、入所者に熊や犬のぬいぐるみをプレゼントしました。



3.

②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】



ダルオベーカリー様



小樽市・余市町・母子生活支援施設などの活動を支援



担々麺なかがわ様



おたる夢市場様

企業との連携を通じてウェルネスなまちづくりに取り組む

済生会フードバンク

我が国の食品ロス量は年間600万トン、毎日10トラック約1,640台分の廃棄が発生しています。一方で、日本の全家庭に対する相対的貧困率は1985年から緩やかに増加し、2015年ではG7の中でワースト2位の15.6%となっています。この状況を家庭環境別にみると、高齢者世帯やひとり親世帯を中心に相対的貧困に直面しているのが現状です。現在、行政などで生活困窮者支援や子ども食堂など「食を通じたセーフティーネット」構築に向けた取り組みが進んでおりますが、それらを補完する団体として、フードバンクの活動が注目されています。

フードバンク事業の流れ



済生会 フードバンク

済生会 フードバンクイベント (お米を無料配布いたします)

北海道済生会は、地域住民が心もとみに健康で、ウェルネスな生活を送れるよう「済生会フードバンク事業」を積極的に展開してまいります。みなさまのご参加を期待しております。

開催日：3月19日(土)

開催時間：お米1kg×2 配布開始13時～1時30分 無料

フードバンクイベント内容

対象：3月19日(土) 午前10時～午後2時

会場：Wing Bay小樽 済生会ビル1階 (5階から1階 コアエントランスの向かい)

対象：(1)生活困窮者(2)生活困窮者(3)生活困窮者(4)生活困窮者(5)生活困窮者(6)生活困窮者

費用：無料

申込：3月15日(水)まで電話またはe-mailで申し込みください。

申込先：北海道済生会 生活困窮者支援課 済生会ビル1階 (5階から1階 コアエントランスの向かい)

電話：011-231-2157

メール：sokusho@shiseikai-hk.jp

済生会なでしこプラン

済生会は、様々な理由で生活に困っている方々に、巡回健診、健康相談、生活物資の支援を行う「なでしこプラン」を全国で展開しています。北海道では、更生保護施設での無料健康診断のほか、衣類や履物、バスタオル類などの生活物資の支援活動を行っています。また、日用品や生活用品メーカーと連携し、行政や支援団体で未在庫で急を要する生活必需品の支援にも対応しています。



②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】

データで見る ひとり親家庭を取り巻く現実



ひとり親家庭の貧困率

48.1%

ひとり親の約半数が相対的貧困

2019年の日本のひとり親世帯の相対的貧困率は48%^{※1}と高い数値です。じつに、ひとり親の半数近くが、相対的貧困に苦しんでいることとなります。前年度に比べて改善してきていたものの、コロナ禍により、再び貧困が加速することが予想されます。



シングルマザーの平均年収

243万

シングルマザーの貧困リスク

平成27年のシングルマザー自身の平均年収は243万円^{※2}とシングルファーザーと比較すると低い水準です。働くシングルマザーのうち正規雇用で働く人の割合は44.2%に対し、パート・アルバイト・派遣社員の割合は48.4%と、非正規雇用のシングルマザーの方が多く現状があります。



養育費を受け取ったことがない
シングルマザー

56%

離婚後に養育費が支払われない

ひとり親となる要因の多くは離婚です。しかし、離婚後に元夫が養育費を支払わず、シングルマザーが自分の収入だけで子どもを育てるケースも多くあります。厚生労働省の調査によると子どもを育てるシングルマザーのうち養育費を受け取ったことがないと答えた人は全体の56%^{※3}。半数以上ものシングルマザーが養育費なしで子育てをしています。

近年の社会課題への支援

2021年9月ひとり親家庭 支援団体と意見交換

しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道の代表平井照枝様が済生会ビレッジを視察され、支援活動に関する意見交換を行いました。

同団体は、シングルマザーが子どもと一緒に生き生きと暮らせるようサポートする団体で、応援セミナーや交流会、相談会、支援者向け講座の開催などの活動を行っています。

今後は、連絡・連携を密にしながら共に協力し、支援活動を拡げていくことを確認しました。



2021年10月ひとり親家庭 へ物資支援

ひとり親家庭への支援施策については、平成22年の児童扶養手当法改正以降も運用改善や予算措置などにより、その改善が図られてきていますが、就業状況、収入の状況などを鑑みれば、ひとり親家庭は依然として厳しい環境に置かれています。

当会では、このような状況を踏まえ、ひとり親家庭への支援を強化しました。

要支援者が抱える課題は、就労や子育て、生活支援など多岐にわたりますが、行政や民間団体と連携し、速やかできめ細かな支援に取り組んでいます。



小樽市ひとり親と寡婦の会へ物資の提供

②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】



済生会の介護職員による
ユニクロ商品の活用検討



産学官民連携の推進

2022年3月 済生会がユニクロと 社会貢献活動で協力

済生会はユニクロと協力し社会貢献活動を推進しています。

済生会ビレッジでは、手や腕などに不自由がある人でも脱ぎ着しやすいように開発された「前あきインナー」を展示し、比較的入手しやすい商品で高齢者や障害者の生活の質を高めてもらう取り組みを行っています。

また、重症心身障がい児者施設みどりの里で体験イベントを実施し、日ごろ外出機会の少ない施設入所者の方々に買い物を楽しんでいただきました。参加者からは「TVで見ていたユニクロ、とても楽しみにしていた！」との感想が聞かれました。



健康経営

を応援します！

協会 健保
を推進

健康事業所 宣言 を行い
健康経営優良法人

実践 健康経営優良法人

実践では以下3つの取り組みを行います。

① 独自の健康プラン実施 を「済生会がお手伝いします」

健康経営に取り組むと企業には様々なメリットがあります。

お問い合わせは、北海道済生会まで

0134-21-2757

企業の成長

生産性の向上

- 欠勤率の低下
- 業務効率の向上

負担軽減

- 傷病手当支払い減少
- 健康保険料負担の抑制

リスクマネジメント

- 事故・不祥事の予防
- 労災発生の予防

イメージアップ

- 企業ブランド価値向上
- 社内・外的イメージアップ

健康経営の取り組み支援

社会環境の変化や様々な要因から、企業にとって従業員の健康管理はますます重要な課題となっています。こういった背景からいっそう注目を集め政府が推進しているのが「健康経営」です。

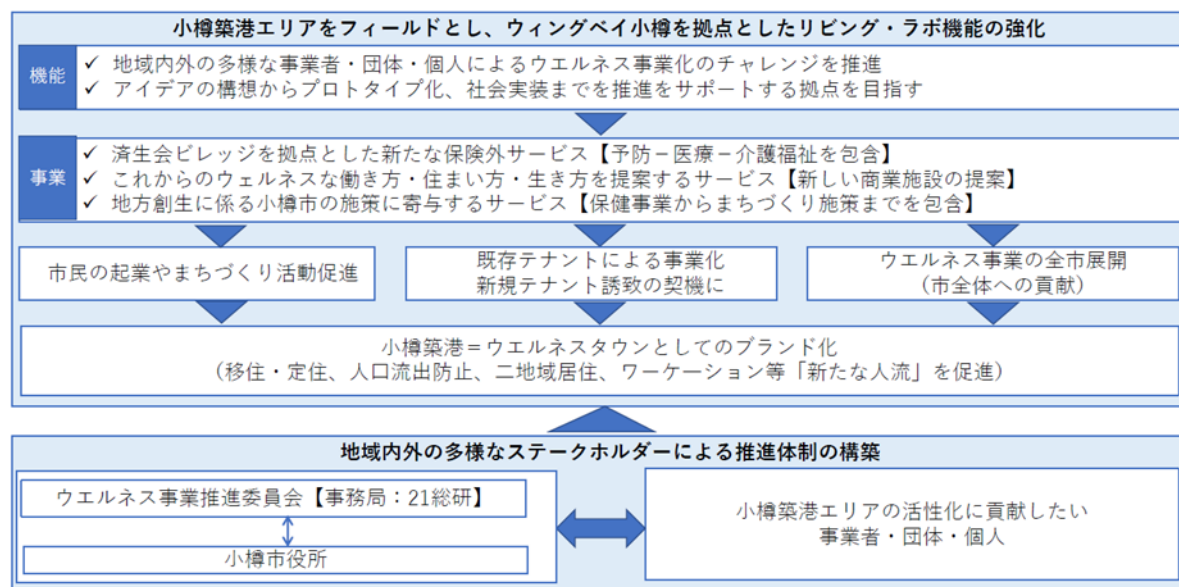
しかしながら、「健康経営に取り組みたいけどなにかから始めればいいのか」「担当する職員を確保できない」など、取り組みを躊躇する企業もあります。

私たちは、ウエルネスチャレンジなどの健康経営に必要なツールを提供し、企業の取り組み支援を行っています。

②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】

ウエルネス事業創出計画

2. ウエルネス事業創出計画の全体像



産学官民連携の推進

令和3年度 地域・企業共生型 ビジネス導入・創業促進事業 (オーガナイザー組織の持続可能な事業計画策定)

本事業は、経済産業省北海道経産局の支援により、小樽築港エリアをモデル地域として、商業施設と医療機関等の連携による新たなヘルスケア産業の創出と地域・社会の課題解決を目指すものです。

(株)二十一世紀総合研究所をオーガナイザーとした組織を構成し「ウエルネスタウン構想」を具現化する事業計画を作成しました。



令和3年度 老人保健 健康増進事業

前年度に続き、厚生労働省調査研究事業を実施する(株)二十一世紀総合研究所より委託を受け、北海道のリハビリテーション等の専門職を活かした高齢者の介護予防推進に係る調査研究事業に参加しました。

済生会小樽病院では、「専門職が不足する自治体と外部のリハ職等との連携モデルの研究【喜茂別町×済生会小樽病院】」と「医療機関に属するリハ職と介護事業者等との連携による要支援者等の生活機能向上推進に向けたモデル検証～特定エリアでの普及・展開に向けた研究～」を担当しています。

2022年2月 「Well-B Meets」

小樽市と小樽商科大学とが共同参画する事業(“JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)”および“経済産業省 地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業”)の関連イベント「Well-B Meets」が開催されました。

このイベントは、小樽市に住む子どもや若者の笑顔があふれ、市民の一人ひとりが幸せに生きられることを目指し、多様なプレイヤー(ヒト)の共創を促進するためのキックオフイベントです。

当日は、北海道済生会の事業とウィングベイ小樽を中心としたウエルネスタウン事業構想とそれを具現化するアプローチ「未病院構想」が紹介されました。



②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】



産学官民連携の推進

R3「たるトク健診」受診勧奨

小樽市民の死亡率は全国、全道に比較し高い一方で、がん検診や特定健診の受診率が低い状況が続いています。市民の健康を維持・増進するためには、市民の健康意識と行動の変容が最も重要です。

小樽市では、市の健康増進計画で特定健診「たるトク健診」の受診率向上に取り組んでいるところですが、当会では小樽市と連携し、その取り組み周知や市民への受診勧奨活動を支援しています。

また、済生会小樽病院では、みなし健診にも協力し、患者さんの同意を得て小樽市に診療情報を提供するなど、市民の生活習慣の予防と早期発見に努めています。

オレンジかふえ 築港店

小樽市は、認知症の人を支える家族の介護負担の軽減を図るため、1 認知症の人とその家族が安心して参加できる場、2 認知症の人やその家族が同じ立場にある人と出会う場、3 地域の人々が認知症について正しい理解を深め認知症の人を温かく見守る場、4 認知症に携わる専門職が認知症の人とその家族にふれあうことができる場を目指して、「小樽市認知症カフェ（通称：小樽オレンジかふえ）」を開催しています。

当会では、小樽市と連携して済生会ビレッジにて「オレンジかふえ築港店」を運営しています。

2021年12月 協会けんぽ 特定保健指導実施

済生会小樽病院では、2021年12月に協会けんぽ北海道支部から業務を受託し、特定保健指導を実施しています。

特定保健指導とは、特定健診の結果から、生活習慣病の前段階であるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の状態にある人や予備群となっている人に対して生活習慣改善のための指導を行うものです。生活習慣の改善を始めれば、将来糖尿病や心疾患・脳血管疾患になる危険因子を減らすことが期待できます。



②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】

▶ よく噛んでしっかり食べましょう

▶ バランスのよい食事をとりましょう

▶ みんなで楽しく食事をとりましょう

▶ 自分に合った活動を見つけましょう

▶ 10分多くからだを動かしましょう

健康長寿3つの柱

栄養 食・口腔機能

社会参加

運動 身体活動・運動など

趣味・ボランティア・就労など

(出典：東京大学高齢社会総合研究機構「フレイルを予防して健康寿命をのばしましょう」)

産学官民連携の推進

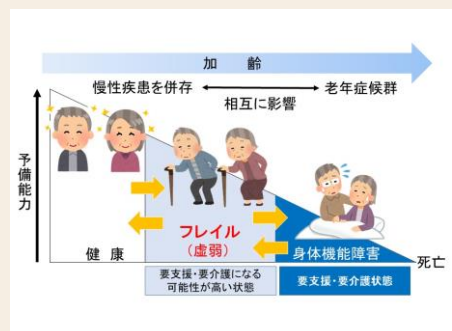
高齢者特有の健康障害とその課題に向けた小樽市の施策

高齢者は、複数の慢性疾患の罹患に加え、要介護状態に至る前段階であっても身体的な脆弱性のみならず、精神・心理的、社会的な脆弱性といった多様な課題と不安を抱えやすく、いわゆるフレイル状態になりやすい傾向があります。

そこで、高齢者の「保健事業」と「介護予防」の実施においては、その特性を踏まえた効果的かつ効率的で、高齢者一人ひとりの状況に応じたきめ細かな対応を行うことが必要とされています。

こうした課題を改善するため、『経済財政運営と改革の基本方針2019』では「高齢者一人ひとりに対し、フレイル等の心身の多様な課題に対応したきめ細かな保健事業を行うため、運動、口腔、栄養、社会参加等の観点から市町村における保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する」と明示されました。これを受けて、各自治体では令和3年度から「保健事業」と「介護予防」の一体的な実施事業を行っています。

小樽市においては、令和3年10月から北海道済生会がこの事業を受託し、市民の通いの場「済生会ビレッジ」で介護予防事業等を行いました。



フレイルとは、わかりやすく言えば「加齢により心身が老い衰えた状態」のことです。しかしフレイルは、早く介入して対策を行えば元の健康な状態に戻る可能性があります。高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険があります。

4. まちづくり連携と協働



ウエルネスとヒストリカルなまちづくりの融合

歴史文化を活かしたまちづくりとの連携・協働

令和2年9月8日、小樽市塩谷桃内地区において「塩谷桃内まちづくり推進委員会」が発足しました。同委員会は、「小樽市歴史文化基本構想」を意識し、塩谷桃内地区に残された歴史的建造物や船絵馬など、多様な暮らしの背景を持つ文化遺産の保存と再生又は活用を通じたまちづくりを進めています。小樽市は、多様かつ豊かな文化遺産を有するまちです。私たちが進めるウエルネスタウン構想では、歴史文化のまちづくりと連携・協働して小樽の魅力を発信するとともに、住民の生活支援も行っていきます。

2021年10月まちづくり講演会開催

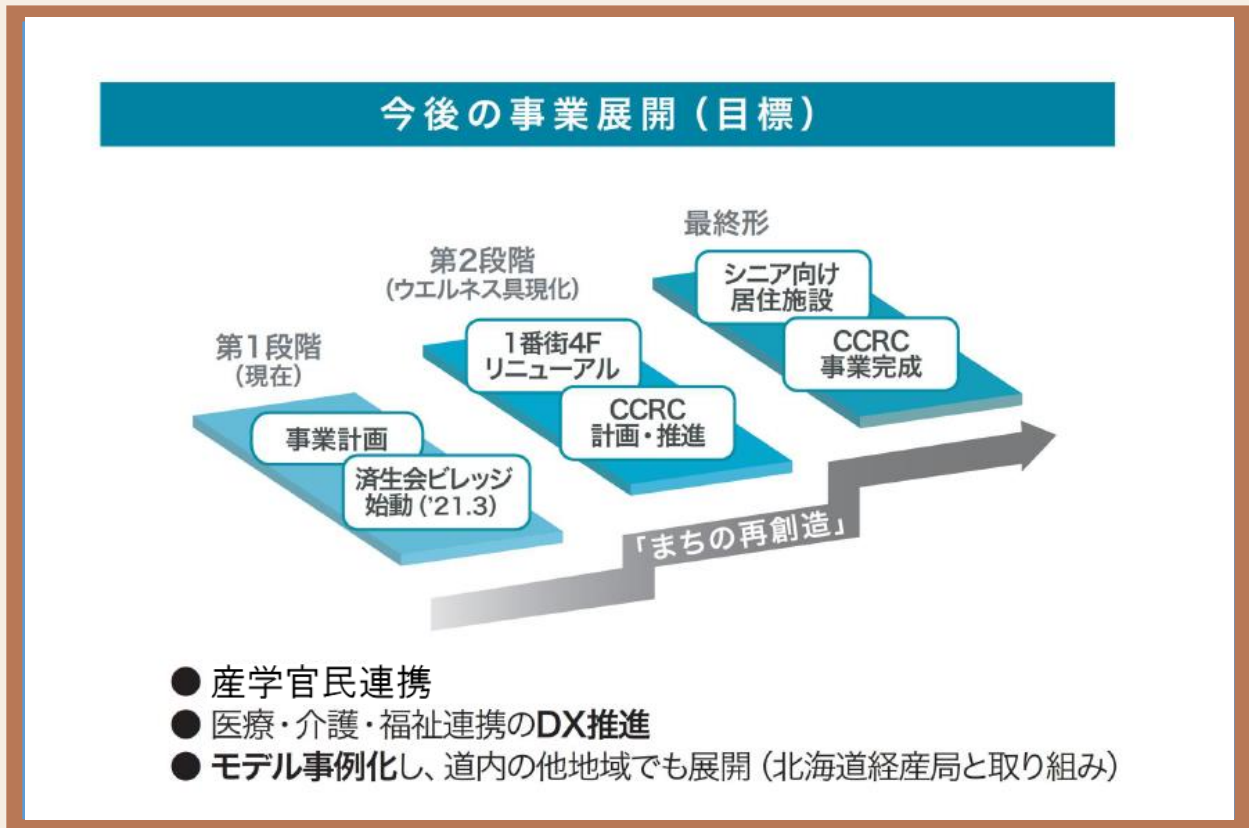
日本遺産「北前船」構成文化追加認定記念塩谷・桃内まちづくり講演会が開催されました。講演では、小樽商科大学グローバル戦略推進センターの高野先生から同地区遺産の歴史的背景について詳細な解説がありました。地域の魅力再発見！地域愛が深まる内容でした。



2022年6月歴史と文化を伝える紙芝居を制作

地域の歴史と文化を伝える紙芝居を制作し、塩谷・桃内連合町会前田会長に贈呈しました。紙芝居の脚本は、2018年に当時の塩谷小学校2年生が演じた、地域の歴史と文化を伝える「タイムスリップ塩谷村」をもとに作成したもので、当時の関係者にも協力を頂きました。この紙芝居は、教材として活用頂くほか、済生会の保育士が実演動画を作成し、地域イベントにも活用する予定です。

5. ウェルネスタウン構想の事業展開



「構想第1段階を終え、第2段階へ」

小樽築港版ニューCCRC構想

私たちのまちづくり「ウェルネスタウン構想」は、小樽築港地区既存の資源を活用し、高齢者が健康な段階で地方に移住し、地域において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療・介護など継続的なケアを受けられる生活共同体「小樽築港版ニューCCRC」の実現を最終目標としています。

地域住民が健康で豊かな生活を送れるまちを目指すことは勿論のこと、就労者人口の増加や、首都圏や札幌、その他の地域からの移住を促進して定住人口の増加の取り組みも行っています。

現在、構想第1段階を終え、CCRC構想を具現化する2段階目の取り組みを進めています。

地方創生の取り組み

東京への人口集中による地方の人口減少を是正し、日本の活力向上を目指す一連の政策が「地方創生」です。地方創生のキーワードとなるのが、「まち」「ひと」「しごと」です。継続的な雇用の創出や有効な人材活用した「しごと」と「ひと」の好循環により、地域の経済を発展させることができます。そして、それを支えるには、働きやすい、住みやすい「まち」の活性化が不可欠なのです。

私たちが目指す「ウェルネスタウン構想」には、これら要素が含まれています。3つの要素がうまく作用しあうことで、「ウェルネス」が実現し「地方創生」につながると考えています。

2021年9月 地区計画変更申請

(株)小樽ベイシティ開発は、小樽市に築港地区の地区計画変更の申請を行いました。地区計画とは、都市計画において、それぞれの地区の特性に応じて一体的に良好な環境を整備・開発・保全するために決定された計画です。「ウェルネスタウン構想」の拠点施設であるウイングベイ小樽周辺は、「商業・レクリエーション地区」として定められていることから、構想実現に必要な地区計画の変更案を市に提出しています。

現在、地区計画変更説明会、小樽市都市計画審議会を経たところですが、2022年9月には区域内における建築物の制限に関する条例の一部が改正される見込みです。

地方創生4つの基本目標

- ・「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」
- ・「地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる」
- ・「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- ・「人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」

「ウェルネスタウン構想」は、地方創生4つの基本目標に一致した、まちづくり事業です。

「ウエルネスバレー計画」～タウンを中心とした地域づくり～

健康・医療・介護・福祉事業（ヘルスケア事業）が集積する当地域において、これら関連事業が連携し戦略的に進行することにより、本市の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出を図るとともに、質の高いサービスや製品を供給できる地域づくりを目指す。



- 集積
 - ・住居（サ高住など）
 - ・教育機関（看護学校など）
 - ・公共サービス
- 連携
 - ・介護事業所連携
 - ・福祉事業所連携
 - ・企業連携
- 新規事業
 - ・子育て支援事業
 - ・介護予防事業（買い物デイなど）
- ヘルスケア関連ビジネス創出事業
 - ・経産省関連事業
- 健康づくりサポート事業
 - ・元気づくりサポーター育成
 - ・介護予防、認知症サポーター育成
 - ・ウエルネスチャレンジ活用拡大
 - ・健康インフラ整備
- 健康経営支援事業
- まちづくり連携
 - ・歴史と文化のまちづくり

将来を見据えた戦略的な地域づくり

ウエルネスバレーとは

「ウエルネスバレー」とは、小樽築港地区とその周辺エリアにウエルネスに関する先進的な取り組みを行う企業や団体、教育機関を誘致・集積し、日本社会の課題解決に向けたウエルネス産業を創出するエリアを意味します。ハイテク企業やベンチャー企業の集積地となったアメリカカリフォルニア州の「シリコンバレー」をなぞって名付けたものです。

小樽は、まちの発展における歴史が豊富で自然環境にも恵まれ、大都市札幌に隣接するポテンシャルの高い観光商業地と言われる一方で、人口減少は止まず地域経済は低迷しています。このような観光商業地としての小樽の現状は、日本の将来の縮図とも言えます。

一方で、小樽築港地区には、世界中の都市で打ち出している「コンパクトシティ構想」に描かれているような社会インフラや必要サービスが既に存在しています。済生会が提供する医療・介護・福祉サービスや制度外の地域課題解決サービスは市民から多くの期待の声が寄せられ、地区計画の変更によって大型商業施設のウイングベイ小樽は施設を柔軟に機能させ、居住や買い物、交流等の各種機能を集積した集約型都市構造（歩いて暮らせる環境）を実現することが可能となります。

このように、他に類のない地域資源を有する小樽は、社会課題解決のための先進的事業開発を目指す企業にとっては非常に魅力的な地でもあります。

当地で「ウエルネスバレー」を実現することは、市民が将来にわたって健康で安心して生きがいの持てる豊かな地域を実現するとともに、地元企業や団体の生産性の獲得と雇用の創出、地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と新規事業が継続的に生まれる地域の実現も期待できます。

2022年4月ARスポーツ「HADO」開店

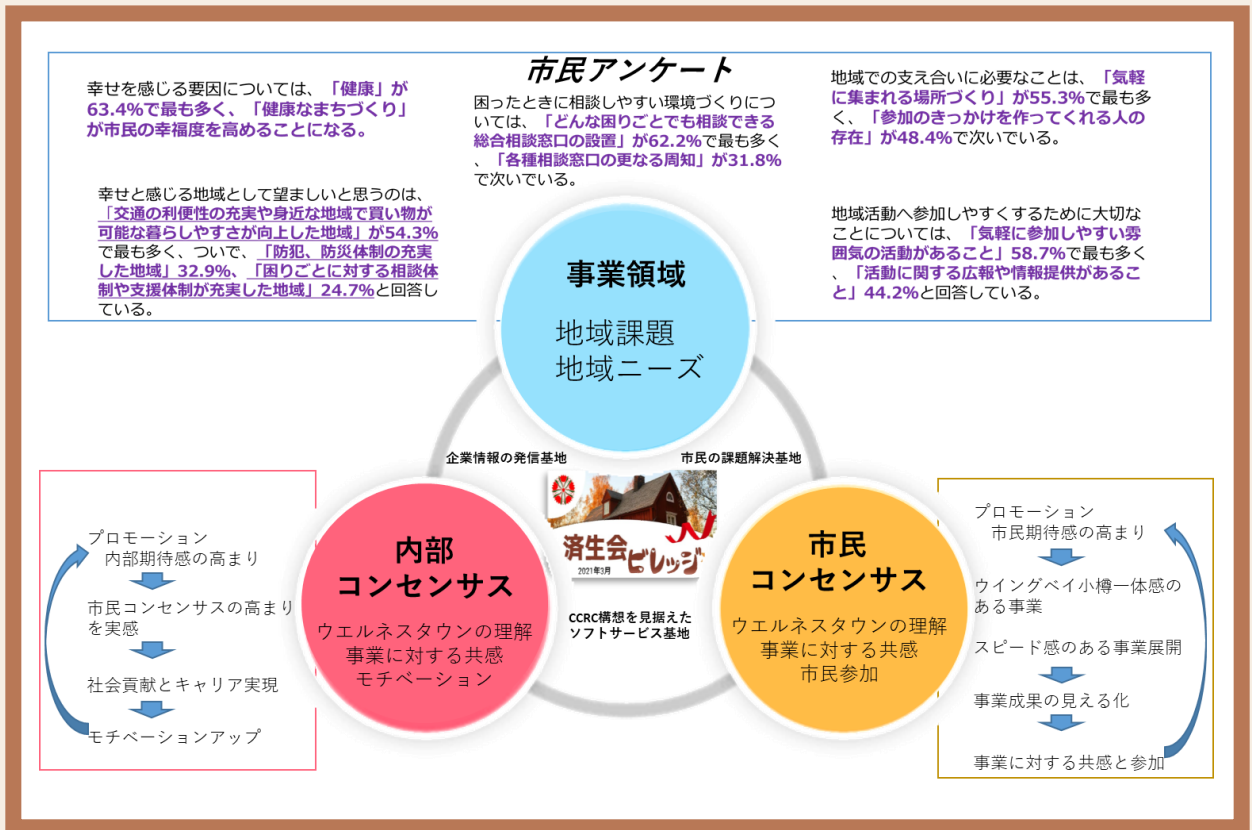
市内で飲食店などを展開するエフビーシーホールディングスがウエルネスタウン構想に沿う形で、道内唯一のARスポーツ「HADO」体験施設をウイングベイ小樽に開店しました。

「HADO」は、身体的接触がほぼなく安全なスポーツとしかだけではなく、企業や団体におけるコミュニケーション向上のツールとして、また教育イベントなどでも活用され話題となっています。

今後は、障がいや高齢者分野でのリハビリツールとしての活用を目的とした連携を検討します。



6. 市民の声に応える計画策定と広報活動



市民の声はウエルネスなまちづくりに期待している

地域課題解決につながる事業

第1期小樽市地域福祉計画・小樽市地域福祉活動計画「たるたる支え愛ぷらん」（2021年3月）では、アンケート調査から見えた小樽市の現状と題し、「しあわせな地域づくりのための市民アンケート」を公表しています。

このアンケート結果から、私たちが進める「ウエルネスタウン」構想事業は市民の期待に応えるものであること、済生会ビレッジで行われる事業が市民から共感いただける事業であることがうかがえます。

済生会ソーシャルインクルージョンサイト「シンク！」では、小樽ウエルネスタウンのまちづくり活動を紹介しています。



事業広報による共感の高まり

SNSなどを活用し、ウエルネスなまちづくりの活動状況やイベント情報などの発信しています。

「北海道済生会ウエルネスタウン計画Facebook」のフォロワー数は昨年より約2倍の174人、投稿を見たユーザー数を表すリーチ数は、114,933リーチとなっています。

北海道済生会ウエルネスタウン計画Facebook



今期実績（2021.4～2022.3）

フォロワー数	投稿数	リーチ数
174人	135件	114,933

7. SDGs活動報告



事業戦略で貢献する目標 2020年～

虐待児童措置受入件数	10		1	34,209	無料低額診療件数
社会的に重要な施設への電気供給検討 (OBCエネルギーセンターから済生会小樽病院へ)			2	97	生活物資支援件数
フードバンク フードドライブ件数	303		3	771	生活困窮相談支援件数
包括支援総合相談延件数	2,884		4	902	フードバンク バックパック量(Kg)
介護予防教室支援件数	21		5	1,362	ウエルネスチャレンジ参加者数
オレンジかぶえ参加人数	661		6	120	無料健康相談件数
障がい者アート等出展件数	133		7	2,832	児童・学童発達支援件数
障害者雇用率	2.6		8	42	保育所等訪問指導件数
実証事業等参加件数	5		9	5.0(男性) 86.0(女性)	育児休暇取得率
			10	84	短時間勤務制度利用者数
			11	89	保育補助制度活用者数
			12	1,239	就労支援利用者数
			13	720	健康経営従業員数

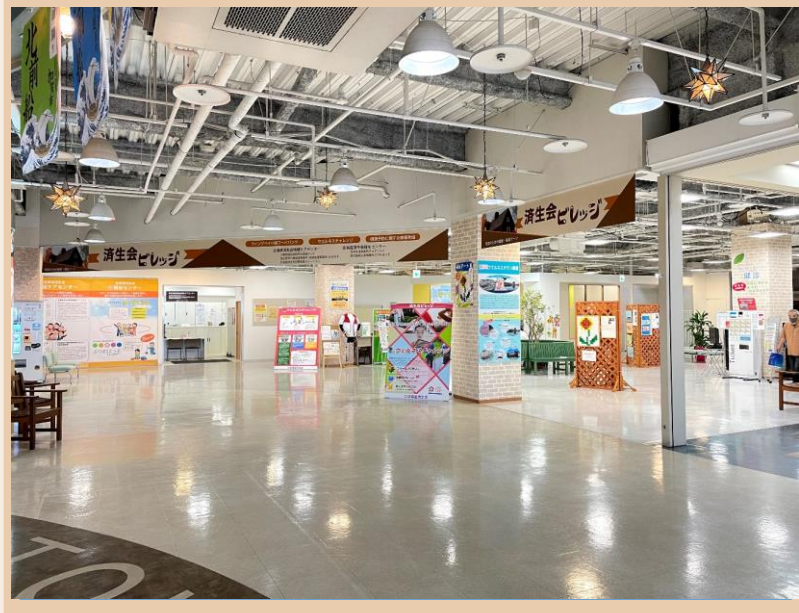


11 小樽市社会福祉協議会、小樽市福祉総合相談室たるさば、ユニクロ、(株)ソプラティコ、(株)RIDEAL、おたる夢市場、ダルオペーカーリー、平野パン、徳源寺、専名寺、塩谷桃内まちづくり推進委員会

8. 報道等

- 2020年07月01日 北海道新聞 「済生会・イオン・OBCがウエルネスで連携協定」
- 2020年12月18日 北海道新聞 「医療・介護誘致にかじ」～ウイングベイ小樽「再生」3年～
- 2020年12月18日 北海道新聞 「横断歩道求める陳情採択」～ウイングベイー済生会病院間～
- 2020年12月18日 北海道新聞 「ウイングベイに介護拠点を集約」
- 2021年03月01日 小樽ジャーナル 「きめ細かなサービス 済生会ビレッジ開所」
- 2021年03月02日 北海道新聞 「ウイングベイに済生会ビレッジ開所」 ～健康増進、介護柱に再生へ～
- 2021年03月03日 北海道新聞 「ウイングベイ前向き」～小樽看護専門学校の移転先候補～
- 2021年03月12日 北海道医療新聞 「済生会小樽 市民の健康づくりへ」 ～商業施設内に福祉拠点～
- 2021年03月15日 朝日新聞 「北海道済生会が福祉アート展」 ～小樽市民の健康福祉ゾーン 済生会ビレッジで～
- 2021年03月23日 北海道ヘルスケアイノベーションセミナー ～小樽築港エリアを中心とする “ウエルネスタウン構想”～
- 2021年03月25日 介護新聞 「北海道済生会支部 市民の健康づくり拠点」 ～商業施設内に 済生会ビレッジオープン子育てサポートと就労支援も～
- 2021年03月30日 織研新聞 「ウイングベイ小樽、済生会と協定」 ～ウエルネスタウンへ街作り担う 第一弾介護の相談窓口～
- 2021年04月 「済生」 大型商業施設と済生会が“まちづくり”でタッグ
- 2021年04月15日 北方ジャーナル5月号 ～健康と福祉をキーワードにウイングベイ小樽を再生へ～
- 2021年04月27日 「月間プロパティマネジメント」2021年5月号 ～商業施設のウエルネス増進策「ウエルネスタウン構築」～
- 2021年05月31日 北海道新聞 「塩谷神社前「なでしこロード」に」
- 2021年06月 「済生」 健康づくりをお手伝いウエルネスチャレンジ！
- 2021年06月08日 北海道新聞 「昼間定時制 働く学生確保」 ～小樽新看護学校市が方針～
- 2021年06月15日 北海道新聞 「ウイングベイのサービス +10分の運動で無料」～道済生会 今月は抽選で20人に映画券～
- 2021年06月03日 ぶらんとマガジン社 北海道医療最前線8月号～北海道済生会が創るソーシャルインクルージョン～
- 2021年06月30日 日経新聞 「旧マイカル小樽、福祉拠点到」
- 2021年07月 日経ヘルスケア8月号「済生会のソーシャルインクルージョンに計画について」
- 2021年09月15日 日経ヘルスケアWEB「済生会のソーシャルインクルージョンに計画について」
- 2021年12月08日 大学ジャーナル「地域に「未病院」機能を 小樽築港ウエルネスタウン構想、実行委員の募集開始」

- 2021年12月12日 みんなの経済新聞 「小樽築港ウエルネスプロジェクト委員会がメンバー募集 築港エリアに「未病院」創出構想」
- 2021年12月21日 北海道新聞 「健康づくり拠点動き加速 実行委、来月初会合」
- 2021年12月25日 北海道新聞 「みどりの里贈り物に笑顔」～サンタラン 樽商大生が訪問～
- 2022年01月 DIET & BEAUTY 「小樽築港でウエルネスタウン構想」具体化に向け実行委員会メンバー募集
- 2022年02月11日 北海道文化放送 のりゆきのトークDEお悩み解決！「増える一人暮らし 老後の孤立どう防ぐ？」
- 2022年02月15日 日経メディカル「ソーシャルインクルージョンに医療と介護の枠を超えて取り組む」コロナで広がった社会の分断にどう向き合う 社会福祉法人恩賜財団済生会がシンポジウムを開催
- 2022年03月07日 北海道医療新聞「医ケア児通所事業を開始～発達支援事業所きつてらす新事業所も開設～
- 2022年03月23日 織研新聞「進むウエルネスタウン計画」～具体化1年、機能を付加～
- 2022年04月 「済生」 栄えある済生会令和賞受賞～誰でもずっとここでのまちづくり～
- 2022年06月11日 北海道新聞 ウイングベイ小樽「健康・福祉」の出店続々～「ウエルネスタウン構想」に弾み
- 2022年06月24日 北海道新聞 ウイングベイでウォーキングを 明日初のイベント
- 2022年07月03日 東奥日報等 時流持論 ～政府一体の少子高齢化対策を～ 恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂
- 2022年07月14日 北海道新聞 赤井川の国際リゾート推進協 小樽に観光拠点開設～用具レンタル、リフト券販売～
- 2022年07月16日 北海道新聞「北後志の魅力ウイングベイで発信」～赤井川・国際リゾート推進協が案内所～
- 2022年07月26日 北海道新聞「生活の質向上 高齢者、障害者にも～ユニクロ小樽店商品紹介イベント～
- 2022年07月30日 STV札幌テレビ Mylist 「ユニクロで医療介護イベント」



編集 済生会ビレッジ
ウイングベイ小樽5番街1階
発行 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部
北海道済生会